

一橋大学・上智大学・早稲田大学経済学の入試経験

郎伊涵

私はハルビン理工大学外国語学院日本語学科を卒業して、2014年4月亜細亜友之会外国語学院大学院進学クラスに入りました。一年間の努力と先生方の指導のおかげで、国立一橋大学大学院、上智大学大学院、早稲田大学大学院経済学研究科に合格できました。文章を書くのが得意ではないので、箇条書きで各大学入試の心得をまとめたいと思います。

●一橋大学

経済学研究科：研究者養成コースと専門職コース；前者は募集人数が少なく、筆記試験の点数が大事。後者は年二回試験あり、30人前後の入学定員、そのうち10人ほどが外国人。出願資格：TOEFL80点以上、日本語能力条件なし。試験内容：筆記試験＋面接試験。面接試験が非常に難しい。面接会場の黒板に出された問題をその場で解答し、先生の質問に答える。問題内容：経済、計量学、微分積分など。筆記試験の点数が一番大事。入試成績の80%を占める。筆記試験の過去問は図書館で入手できる。一番大事な参考書：高鴻業『西方経』、奥野正寛《ミクロ経済学》。

●上智大学

二期に分け、あわせて15人募集する。倍率はおよそ8倍。出願資格：TOEFL79点以上、日本経済学検定（ERE）B以上。殆どの合格者は日本経済学検定（ERE）A以上。日本語能力試験N1合格。面接の時に6人の先生がいた。研究計画について質問された。日本人のほうが多かった。事前に教授と連絡することが可能。上智大学の経済は英語の成績が一番重要らしい。事前に教授と連絡し、面談して教授の反応を見て出願するの判断したほうがよい。英語の成績が良くない場合は明治大学、法政大学のほうがお勧め。

●早稲田大学

二期に分け、合わせて80人募集する。一期の出願時期が7月で、間に合わない人が多い。出願資格：日本語能力試験N1合格、TOEFL 或いは TOEIC の成績（何点以上は明記していない）。早稲田大学の在校生の話によると、TOEFL80点以上、TOEIC750点以上は必須。筆記試験：問題数が多い。基礎知識が重要。計算結果が煩雑で、整数になる場合が少ない。面接試験：面接官2人、会場で微分・積分、英語、統計学などの分野から四問中2問が出される。英語の問題は経済関係の文章を音読してそのまま訳す。

最後に、いくつか共通のアドバイスをさせて頂きたいと思います。TOEFLの試験を早く受けたほうがよいと思います。微分・積分・確率論の復習を怠らないことです。研究計画書の内容はできるだけ教授の興味関心に近づけることです。